



㊤講師を務めた吉永みち子さん ㊦壇上だけでなく、会場の後方からも呼び掛ける児童たち ㊧熱演する児童たち



### 差別のない社会を目指して 2014 明るい人権の町づくり大会

明るい人権の町づくり大会は5月10日、松前総合文化センターで行われ、約600人が参加しました。

人権啓発劇では、松前小6年生が「思いやりの心で笑顔の花を咲かせよう」を熱演。普段何げなく使っている言葉を相手の立場になって考えてみることや、人を見た目だけで判断しないことの大切さを、歌や詩も交えながら伝えました。

記念講演では、ノンフィクション作家の吉永みち子さんが「気づき・認め合う社会をめざして」と題して講演。「今までは『男』『女』としての2つの生き方がありました。でも、これからは男女の区別なく1人で生きていける、多様な人間関係や生き方ができる世の中です」と、自身の経験を踏まえながら話しました。そして「それらをみんなが認め合う世の中が必要。それに気づくことが『気づき・認め合う社会』です」と締めくくられると、会場は大きな拍手に包まれました。



㊤義農作兵衛像の前で式辞を述べる白石町長 ㊦大盛況の「ふるさと市」 ㊧義農太鼓を披露する松前小の児童たち



### 作兵衛翁の遺徳をしので 平成 26 年度義農祭

享保の大飢饉の際、後世に麦種を残すため、自らの命を犠牲にした義農作兵衛の遺徳をしので義農祭は4月23日、義農公園で開かれました。

式典では、白石町長が「文明や技術の進化で物が豊かで生活も便利になる一方、人と人のつながりは希薄になり、自分一人ですべて生活できるという風潮がある今、義農作兵衛の精神は大事なものです。人のために尽くす『利他』の心を持ち、改めて義農作兵衛とその精神に向き合い、行動や考え方を見つめ直すことが、松前の未来を輝かせる礎になると確信します」と述べた後、参列者が献花を行いました。

式典のあと特設ステージでは、餅まきや舞踊のほか、松前小学校の児童による義農太鼓と伊予万歳が披露され、訪れた人を楽しませていました。

また、町内をはじめ伊予市や砥部町で生産された海産物や野菜などを即売する「ふるさと市」も行われ、大勢の人でにぎわいました。

### 区長が兵庫県淡路市で研修 平成 26 年度統括広報委員視察研修

各地区の区長で構成する統括広報委員会は4月17、18の両日、災害時の共助をテーマに、兵庫県淡路市の「北淡震災記念公園」で研修を行いました。

阪神・淡路大震災によって現れた野島断層がそのままに展示されている同公園。参加者は本物の断層を見ることで地震のエネルギーの巨大さと、断層運動による複雑な地表面の変形に見られる自然の驚異を学びました。

また、語り部からは自らの被災体験に基づく、地域のコミュニケーション、地震に対する備えや命の大切さなどの話を聞きました。



三好 國榮さん  
松前町区長会会長  
東古泉

#### レポート

阪神・淡路大震災から19年。震災を風化させず、その教訓を未来に生かすための施設がある淡路市を訪ねました。

淡路市にある北淡震災記念公園は、阪神・淡路大震災で現れた野島断層をありのままに展示していて、地震のすさまじさと脅威を感じました。ここでは震災の語り部から話を聞く機会があった

のですが、「重要なのは地域の絆です」ときっぱり言い切っていたところがとても印象に残りました。

阪神・淡路大震災のとき震源地に近い兵庫県の旧北淡町(現・淡路市)では、約300人が生き埋めになりましたが、住民と消防団の連携により当日のお昼すぎには全員救出されたと聞きました。その地域では、近所の人は誰がどの部屋で寝ているかまで知っていたため、生き埋めになった被災者の救出作業が早

く進んだそうです。自助・共助・公助の中でも、共助が果たす役割の重要性がよく分かる話でした。

災害は止めることができません。でも被害を減らすことはできます。地域の絆によって一。

研修から戻った後、東古泉であった救命救助訓練で、早速「減災と地域の絆」について住民に話しました。他の区長さんと共に、地域ごとの共助体制をこれからもっと進めていきたいです。

### 風水害に備えて訓練 松前町消防団・自主防災組織合同水防工法訓練

平成26年松前町消防団・自主防災組織合同水防工法訓練は5月18日、徳丸の二輪車公園西にある重信川左岸堤防で行われ、消防団、自主防災組織や松前消防署など約450人が参加しました。

台風シーズンを迎えるにあたり、風水害による災害を最小限に食い止めるため行われている同訓練。池内勝彦団長の訓練開始報告後、一斉に水防工法の基本となるロープ結索訓練から取り掛かりました。消防団などの指導を受けながら、ロープワークを実演した参加者たち。「普段から忘れないように、ロープをいじらないといかん」とその重要性を認識していました。

その後も、土のうを作ったり、それらを積み重ねてブルーシートで覆ったりすることで、浸水を防ぐ工法を実演。杭が打てない住宅地での、床上・床下浸水対策を学びました。

訓練に参加した上高柳自主防災組織は「上高柳でも河川の氾濫が起こることもある。いざというときに、土のうを積み重ねる訓練などが役立つ。消防団と協力しながら、自主防災組織として率先して動けるようにしたい」と話し、自分たちの町は自分たちで守るという決意を新たにしていました。



㊤工法の基本となるロープワーク。迅速・簡単・確実が求められる ㊦「土のうを積み重ねて、シートで挟みます」。浸水の防ぎ方をアドバイス ㊧消防団・自主防災組織が協力し合い土のうを作製



⑤優勝トロフィーを手にする松尾さん。7月25日～29日に宮城県石巻市で開催される全国大会に向けて、「必ずホームランを1本打ってきます」ときっぱり



## 松尾航希さん所属チームが全国大会へ 松山リトルシニアが四国ブロック大会優勝

2014年度 関西連盟春季大会四国ブロック大会は伊予市しおさい公園野球場などで開かれ、岡田中学校3年の松尾航希さん＝西古泉＝が所属する松山リトルシニアが見事優勝し、全国への切符を手に入れました。

新居浜リトルシニアとの決勝戦では、持ち前のパワーを生かし3ベースヒットを放つなど、9-3での勝利に大きく貢献した松尾さん。「全国に行けると思うとうれしかった。次は全国制覇したい」と優勝の瞬間からすでにその視線は、次のステージを見つめています。

全国でもその長打力が爆発するか、期待は高まるばかりです。



## 先輩、お変わりないですか

出作老人会が旬の「ソラマメご飯弁当」をお届け

出作老人会は5月8日、80歳以上の単身世帯と90歳以上の45人に、手作りのソラマメご飯弁当をお届けしました。

これは20年ほど前から、ソラマメが旬のこの時期に、地区の絆とふれあいを深めるために行っている伝統行事です。当日は男性役員が段取り、女性会員が弁当を作り、各組の組長さんなどが配達。手紙付きの愛情が込められたお弁当をみんな笑顔で受け取っていました。



## 稲見美千代さんが受賞

民生委員・児童委員に対する厚生労働大臣特別表彰

長年に渡り民生委員を務め、地域福祉に貢献した功績を認められた稲見美千代さん＝筒井＝が厚生労働大臣特別表彰を受賞。4月28日、白石町長より表彰状と記念品が贈られました。

平成10年から15年間、民生委員としてサロンの立ち上げや独居高齢者の見守りなどに尽力した稲見さん。受賞に対し、「地域の人の笑顔を見るのがうれしかったし、やりがいを感じていました。受賞することができ、感謝しています」と笑顔で話していました。



⑥白石町長より表彰状と記念品を受け取り、こやかな表情を見せる稲見さん



## 広報まさきが一枚写真部門で3席

平成26年全国広報コンクール

平成26年全国広報コンクール総合審査会が4月17日に開催され、広報まさき7月号表紙が一枚写真部門で3席に輝きました。3席は特選、1席、2席に次ぐ入選で、同コンクールでの受賞は初めてとなります。

同コンクールは、地方自治体の広報活動の向上に寄与することを目的に優秀作品を表彰するもので、昭和39年から開催されています。今回の受賞は、いつも支えてくれる町民皆さんのおかげです。この受賞を励みに、さらに愛される広報まさきを目指します。



⑦7月号表紙。田植えて泥だらけになる子どもたちの様子を撮影